

1 題材名 マイタンブラーをデザインしよう

2 本題材の目標

- (1) ①配色の理論や色の効果を理解し、主題に合わせて作品に取り入れる。
 ②材料のよさを生かして組み合わせ、創造的に表現する。 (知識及び技能)
- (2) ①使用場面を想定したデザインについて考えて主題を生成し、使う人を心豊かにするタンブラーの装飾を構想する。
 ②目的に合わせて調和の取れた配色が用いられている作品のよさや美しさを感じ取ろうとする。 (思考力、判断力、表現力等)
- (3) ・美術の創造活動の喜びを味わい、色などの造形要素に関心をもって表現活動と鑑賞活動に取り組もうとする。 (学びに向かう力、人間性等)

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 配色の理論や色の効果を理解し、主題に合わせて作品に取り入れている。 ② 材料のよさを生かして組み合わせ、創造的に表現している。	① 使用場面を想定したデザインについて考えて主題を生成し、使う人を心豊かにするタンブラーの装飾を構想している。 ② 目的に合わせて調和の取れた色が用いられている作品のよさや美しさを感じ取ろうとする。	・美術の創造活動の喜びを味わい、色などの造形要素に関心をもって表現活動と鑑賞活動に取り組もうとしている。

4 題材について

(1) 題材観

本題材は高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説芸術編（平成30年7月）美術編「美術Ⅱ」A表現（2）デザインに基づくものであり、扇型の台紙に装飾を施し、二層構造のタンブラーの外層に台紙を入れて独自のデザインのタンブラーを制作する題材である。誰が、いつ、どこで、どのような気持ちで、といった使用場面を想定したうえで制作することで、目的を考えて計画的に表現の構想を練る力を培う。制作の前に、色が感情に与える影響や、調和のとれた配色の効果と実例について指導者がスライドで説明して、デザインが私たちの生活を豊かにしていることを理解させることで、造形要素を生かして創造的に表現する能力を育成するとともに、使用者の生活を創造するという観点から主体的に表現活動に取り組めるようになることをねらいとしている。制作では、絵の具で色を作って着色するほかに、印刷物やビニールなどの異素材を組み合わせるコラージュの技法を使う。様々な素材に触れることにより、色の魅力を発見し、配色の決定に役立て、制作への興味を引き出すことに資すると考える。

(2) 生徒観

対象となる生徒は、美術への関心、取り組む姿勢、技能の到達度に個人差がある。年度当初に実施したアンケートの「今年度の美術の授業で頑張りたいこと」という設問に対して、「自分の理想により近い作品にしたい」、「自分で想像したり考えたりすることを頑張りたい」、「作品の完成度を高めたい」という意見が非常に多かった。美術に苦手意識を持つ生徒も、発想力や技能を高めて自分の作品をよりよいものにしたいという意欲があると考えられる。

(3) 指導観

生徒の様子から、年間を通して生徒の美術への関心を高める手立てを工夫することや、創造的な表現の構想を練り、見通しをもって制作する力を重点的に育成すること、身に付いている技能が多様である生徒たちがそれぞれの能力に合わせて取り組める題材を設定することが、指導者の課題である。

課題を達成するため、生徒の関心を引き出す事前鑑賞を工夫し、構想を補助するワークシート

を活用する。個に応じた指導のために、制作物においては「主題に合わせた色を使って制作しよう」、「色々な素材を組み合わせて制作しよう」、「用具を使って細部まで美しく造形しよう」という意図に合わせた3つのゴールを設定する。これにより、生徒が自分の現時点での表現からさらに上の表現へ進む努力をし、より創造性の高い作品をつくることに挑戦し易くなると考える。加えて、躓きがある生徒にはその都度、躓きの原因についてともに考え、制作に対する意欲を引き出すことができるように配慮する。

5 題材の指導計画（8時間扱い）

次	時	学習内容・活動	指導上の留意点	評価規準【評価方法】 ○指導に生かす評価 ◎記録に残す評価
1	1	<p>課題 色にはどのような効果があり，社会の中でどのように活用されているのかを知らう。</p> <p>1 スライドを使って事前鑑賞し，ワークシートに記入しながら，色の感情，調和する配色，それらの実用例を知る。</p> <p>まとめ 色には人の感情や行動に作用する効果があり，インテリアや広告などのデザインに有効に活用されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドを作成し，色の感情や配色の理論についてわかりやすく伝えるようにする。 ・実際の広告物を鑑賞しどの配色の方法が使われているかを問う。広告物は季節感などを意図的に強調しているものを選び，補色配色等の理論がどのように使われ，広告を効果的なものになっているかを体感できるように配慮する。 	<p>○評価</p> <p>目的に合わせて調和の取れた配色が用いられている作品のよさや美しさを主体的に感じ取ろうとしている。（思②）</p> <p>【ワークシート・観察】</p>
2	2 本 時	<p>目標：色について学習したことを活用して，使用場面に合わせたタンブラーのデザインを構想する。</p>		◎評価
	3	<p>課題 色の組み合わせとその効果をどのように作品に生せるのかを考えよう。</p> <p>1 ワークシートを用いて使う人，時間，場所などの使用場面を想定する。それを基にデザインを構想し，アイデアスケッチをする。</p> <p>2 使用場面とアイデアスケッチから発想して，タンブラーに使用する色を考える。</p> <p>3 考えた色を絵の具でつくり，小さく裁断した画用紙に塗ってテストピースをつくる。</p> <p>4 テストピースを用いて最終的な配色を決定する。</p> <p>5 使用する色を絵の具で多めにつくり，画用紙に塗って，制作に使う素材をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・使用場面を明確にし易いようにワークシートを活用する。 ・使用する色は，2～4色程度で決定するように伝える。色数を絞ることでよりよい配色を検討することができるようにする。 ・色選びで迷いのある生徒には，素材置き場にある印刷物などを見るように助言し，発想に繋がる発見を促す。 ・テストピース用の紙は余分に準備し，生徒が積極的に色をつくれるようにする。 ・使用する色が決定したら，色数と同数のA4画用紙を配付する。 	<p>B：使用場面を想定し，そこから発想してデザインの構想を練っている。（思①）【ワークシート】</p> <p>◎評価</p> <p>A：学習した配色の理論や色の効果を理解し，主題に合わせて効果的に活用して，調和した配色を決定している。</p> <p>B：色の効果を理解し，主題に合わせて配色を決定している。（知①）</p> <p>【ワークシート・観察】</p> <p>○主題に合わせて配色を決定することができない生徒には，配色パターンのサンプルを見せながら「この配色はどんな感情を表現している」と</p>

		<p>まとめ 色の組み合わせとその効果について理解し、装飾に使う色を決めると使う人の気持ちに沿ったデザインにできる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・使う人の気持ちを考え、使用場面にふさわしいデザインを構想できているかを、適宜振り返るようにする。 	<p>思うか。」「この配色でお菓子を包装すると、どのような人が買いたくなるか。」などの問いかけをし、色と感情やイメージが結びつくことを理解できるように支援する。 (知①) 【ワークシート・観察】</p>
3	4 5 6 7	<p>課題 3つのステップで作品をよりよいものにしていこう。 (1) 主題に合わせた色を使って制作しよう (2) 色々な形や素材を組み合わせ、制作しよう (3) 用具を使って細部まで美しく造形しよう</p> <p>1 材料置き場から、使用する色に準ずる色の素材を探し集めてくる。 2 アイデアスケッチと素材を照らし合わせながら、制作方法を考える。 3 中間鑑賞として友達のアアイデアスケッチと使用する素材を鑑賞する。よいと思った点をワークシートにメモして、自分の制作の参考にする。 4 絵の具で自作した素材と、集めた素材とを用いて、計画に沿って作品を制作する。 5 制作中に必要がある場合は、その都度新しい素材を探す。</p> <p>まとめ 色や素材のよさを発見し作品に取り入れたり、用具を使って細部まで美しく造形したりすると、作品がより魅力的になる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の制作において、課題(1)は(2)を達成するのに困難がある生徒がまず取り組むもの、課題(2)はB評価の基準となるもの、課題(3)は発展的なものである。 ・ビニール、反射素材、金属、布など多様な材質の材料を用意する。 ・材料は色ごとに分けておき、選び易いように配慮する。一方で材質ごとに分けることはせず、探す楽しさを感じさせる仕掛けとする。 ・課題(3)に進む生徒については、希望に合わせて雲形定規やデザインカッター、烏口などの用具の使用方法を指導する。 	<p>◎評価 色などの造形要素に関心をもち、主体的に表現活動に取り組もうとしている。(主) 【観察】</p> <p>◎評価 材料のよさを生かして組み合わせ、創造的に表現している。(知②) 【作品・観察】</p>
4	8	<p>課題 配色に注目して、友達作品を鑑賞しよう。</p> <p>1 完成した作品を互いに鑑賞する。 2 考えたことや気付いたことをワークシートに記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・配色に注目して鑑賞するように助言する。 ・鑑賞にワークシートを使用する。どのような使用場面を想定してデザインされたのか、作者の意図を考え、考えを理由とともに記入するように説明する。 	<p>◎評価 目的に合わせて調和の取れた配色が用いられている作品のよさや美しさを主体的に感じ取ろうとしている。(主) 【ワークシート・観察】</p>

	<p>3 題材を通しての活動を振り返り，課題の達成度を自己評価する。</p> <div data-bbox="252 264 730 481" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>まとめ 使用場面に合わせた配色を使ったデザインは，使う人の心に潤いをもたらす。色について理解しそれを活用することで，自分の生活をより豊かなものにしていくことができる。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全員の作品を見てから特に詳しく鑑賞する作品を決めるように伝える。 ・ 作品のよい点を積極的に見つけるように助言する。 	
--	--	---	--